

インターバンクの声（2017 年 2 月 6 日）

先週末、米労働省が発表した米雇用統計は、1 月の非農業部門就業者数が 22 万 7 千人増加、市場予想や前月の数字を大きく上回ったが、失業率が横ばいの見通しに対して 0.1%悪化、平均賃金の伸びも鈍化する内容だった。

発表直後は非農業部門就業者数の大幅な伸びに対してドル買いとなったが、失業率の悪化と平均賃金に伸びが見られなかったことから 112 円 30 銭台まで円買いが進んだ。

先日の米連邦公開市場委員会 (FOMC) の声明文に 3 月の利上げを示唆するような記述がなかったことや、週末の雇用統計結果を見て、次回の利上げは 6 月 FOMC になるとの見方が広がった。

ただ、ドル円は雇用統計後に低下した米長期金利が徐々に反転上昇傾向となり、ウィリアムズ・サンフランシスコ連銀総裁が 3 月利上げの論拠はいくらかあると発言したことで、113 円台まで戻す場面もあった。

もっとも、ウィリアムズ総裁は、3 月の利上げはデータ次第と、イエレン議長の決まり文句を代弁するような発言もしており、市場は米経済指標やトランプ米大統領の発言に注目しながらの展開が続きそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。